

受講番号 19039 学校名 須崎高等学校 氏名 高橋佳香

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 16名
科目名 検定英語講座 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 準2級・2級英検予想問題集(旺文社)

クラスの様子・特徴

総合学科である須崎高校における「検定英語」講座では、受講生徒の3分の2以上は専門学校進学を希望している。ほとんど全員が「英語が好き」で「英検に合格したい」と授業中も真面目に取り組む明るく積極的であるが家庭での学習はほとんどしない。

問題の確定

「自宅学習はしない」生徒が半数、定期試験学習については「計画どおり進まない」「なりゆき」が3分の2を占めている。

予備調査

A 授業の観察

全体的に明るく積極的で、知っている知識や疑問は講座内の全員と共有しようとする雰囲気がありペア活動にも抵抗がない。文法など、ほかの生徒が指摘された間違いと同じ間違いを繰り返す傾向があるので要点の繰り返しの確認が必要である。

B 生徒による授業評価

ほとんどの生徒が「英語が好き」と答えている。コメントからは授業内での辞書引きや語源など英語にまつわる雑学を興味深いと感じているが、解説のスピードが速いことや知らない単語が多いことに苦勞を感じていることがわかる。

C 学力データ

始業式の基礎力診断テスト(英語)では、A～D段階の下位CとDの学習到達ゾーンの生徒が多い。中には一般動詞の疑問文を作れない生徒もいるが、英検の模擬試験の結果からは特に語彙力の低さから苦戦している様子が見られた。

リサーチ・クエスト

家庭学習の習慣のないクラスで、英語検定(2級、準2級)合格のための語彙力をつけるためにはどのような指導をすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

前回の学習内容について毎回小テストと答え合わせを実施し、成績に加味すれば家庭での復習につながるだろう。

実践1

毎時間授業開始時に各級5分間テストを実施する。その後すぐに全体で解答の確認をする。解答する生徒は解答をいれた状態で英文を読み、根拠となる事項をあげる。全体の生徒は各自の答えを確認し、前回の学習事項の復習とする。
小テストの結果は1～3問間違い=A(3点)、4～5問間違い=B(2点)、6問以上間違い=C(1点)として計算し、成績に加味する。

検証1

ほとんどの生徒が授業前の休み時間の間に個人かペアで問題の出し合いをした、という勉強法のみで、小テストのために家庭学習した、という生徒はほとんど皆無であった。ただし、毎回約10問の小テストの成績自体はよく、半数以上が常にAランク(間違いは3問以内)であったし、2学期末試験の成績もこれまでになくよかった。限定された範囲に限っての短期記憶かもしれないがテストに対応する力はあるようだ。

仮説2

問題集の解説を読んで要点を一覧にまとめてから問題集の設問に解答することから始めれば「知らない単語ばかり」というしんどさや苦手意識を軽減し、個人やペアで繰り返し問題一覧にあたれば語句が定着するだろう。

実践2

「問題を解いて解答後、解説を読んで復習」の手順を逆にし「解説を読んで一覧表にまとめるという予習をしてから問題を解く」手順にする。各自解説の中から自分に必要だと思われる情報(知らなかった語句・忘れていた文法事項等)を抜き出し、要点一覧表を作成する。要点一覧表を使って、ペアで語句の確認を行った後、問題出題者と解答者を決め、問題を出し合う活動を行う。

検証2

「問題集の解説を読んで要点を自分なりに一覧にまとめてから問題集の設問に解答する」ことから始める手順にする。そうすることで「知らない単語ばかり」「全部調べないと…」というしんどさや苦手意識を軽減し、個人やペアでの繰り返しに重点を置けた。その後各自で設問にあたるので間違えた解答自体が少なくなった。同時に「ポイントは押さえている」という自信につながったようで指名しなくても口々に解答を言うようになった。

仮説3

問題一覧表と要点一覧表を作成し、家庭で学習しやすい教材・状況を作っておけば授業外でも学習するだろう。

実践3

生徒が各自で作成した要点一覧表を回収し、まとめる。その際、問題も一覧表にまとめ、問題番号と要点についている番号を同じにしておき、問題ごとに要点の整理ができるようにする。

検証3

定期試験前には問題一覧表・要点一覧表と首っ引きになってリストを活用していた。個人で使う場合は赤ペンで解答記入後、赤い下敷きを上から重ねてオリジナルの教材にし高得点の生徒が続出した。要点整理した一覧表を使った勉強法の指導のなかった1学期中間試験の平均点は56点だったが、一覧表作成後の2学期期末試験は81点と大幅に得点が上がった。

研究の成果

生徒は、成績に結果を加味される小テストのプレッシャーだけでは家庭学習をするにはいたらなかった。しかし、試験生徒は試験に向けて的を絞った取り組みやすい課題を与えることによって意欲を増し、毎授業前の休み時間は小テストに向け、個人やペアで学習している姿が常となった。そのことは、これまで生徒が試験を目前にどのように勉強を進めるのが効率が良いかについて、私が思うほどはつきり捉えてはいなかった、ということでもある。「勉強の仕方」についてのより丁寧なオリエンテーションと、要点がわかりやすい授業の進め方が必要だ、と感じた。

今後の授業改善の課題

家庭に学習をもって帰らせることはまだ難しいが、生徒は授業内でテスト対策の仕方を身に付け「自分が勉強した分成績につながった」達成感は感じていた。「どうせやっても無駄」と思わず効率的に学習に取り組めたことを「自分でもっと勉強すれば合格につながる語彙力がつく」という気持ちを持ち続けさせていかなければならない。「要点一覧表」以外の方法についても紹介して生徒の学習スタイルの幅を広げていく必要があると思う。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-42-1744

電子メール